

J Q - 5 4 3 - 5 0 0 - 0 7 - 0 1  
(J Q - 5 0 0 ミックスボーダー)

ミックスボーダー仕上げ  
施工の手引き

適用品番

ジョリパットインフィニティ J Q - 5 0 0 シリーズ

【初版】平成 27 年 3 月

アイカ工業株式会社  
化成品カンパニー

<使用材料>

材料	商品名	概要	荷姿	標準施工面積
シーラー	ジョリパットシーラー JS-500	1液水系アクリルシーラー (水で50~100% 希釈して使用)	18kg/缶	約135~240m <sup>2</sup> (水希釈量で 変動)
	ジョリパットシーラー JS-410	1液溶剤系 アクリルゴム系シーラー	15kg/缶	約75~100m <sup>2</sup>
	セーフシーラー JS-800	1液水系ガチオンシーラー	16kg/缶	約80~106m <sup>2</sup>
主材	ジョリパットインフィニティ J Q - 5 0 0 シリーズ 標準色 J Q - 5 0 0 T□□□□ (□…数字) 特注色 J Q - 5 0 0 △○○○ (△…英字、○…数字)	アクリル共重合樹脂 水性仕上げ塗材	20kg/ ペール缶	約7m <sup>2</sup>
骨材	JF-1 JF-3	寒水石(白竜)1厘 寒水石(白竜)3厘	20kg/袋 20kg/袋	約22m <sup>2</sup> 約15m <sup>2</sup>
専用ローラー	JR-193	ミックスボーダー専用ローラー	—	—
専用シート	JR-193S	ミックスボーダー入隅用シート	—	—
転写液	JT-180N	専用転写液	14kg/缶 3kg/缶	約182m <sup>2</sup> /缶 約39m <sup>2</sup> /缶

※セーフシーラー JS-800 は2kg×2個セットもございます。使用する面積によってはこちらをご使い  
いただくことを推奨致します。(施工面積目安: 約20~25m<sup>2</sup>/セット)

※使用する下地に適合したシーラーをご使用下さい。詳しくは各シーラーの説明書または最寄のアイカ  
工業株各支店にお問い合わせ下さい。

<主な施工道具>

- ・金ゴテ
- ・専用ローラー (JR-193)
- ・霧吹き(転写液噴霧用) キヤニオナスプレーSAN2439(推奨)
- ・中毛ローラー (JR-220H)
- ・入隅施工用専用シート(JR-193S)

<下地調整>

モルタル金ゴテ押さえ(平滑)など

<ミックスポーダー仕上げ施工方法>

1. シーラー塗布

配 合	J S - 5 0 0	1 8 k g
	清 水	9 ~ 1 8 ドル
塗 布 量	0. 1 5 ~ 0. 2 k g / m <sup>2</sup>	
施工方法	ローラー刷毛又はスプレーガン	

1' JS-410 の場合

配 合	J S - 4 1 0	1 5 k g
塗 布 量	0. 1 5 ~ 0. 2 k g / m <sup>2</sup>	
施工方法	ローラー刷毛又はスプレーガン	

1" JS-800 の場合

配 合	J S - 8 0 0	1 6 k g
塗 布 量	0. 1 5 ~ 0. 2 k g / m <sup>2</sup>	
施工方法	ローラー刷毛又はスプレーガン	

※下地、主材に応じた最適なシーラーを選定して下さい。  
 3時間以上 48時間以内

2. 主材 下塗り

- J Q - 5 0 0 シリーズを無希釈で 0. 9 kg / m<sup>2</sup>となるよう  
 金ゴテにて平滑に塗布してください。

夏期 4 時間以上  
 冬期 12 時間以上  
 乾燥を確認後、次工程に移って下さい。

3. 主材 配り塗り

配 合	J Q - 5 0 0 シリーズ	2 0 k g
	J F - 1	1 0 k g
	J F - 3	1 5 k g
塗 布 量	清 水	2. 0 ~ 2. 5 ドル
施工道具	約 4. 0 k g / m <sup>2</sup>	
	金ゴテ	
	金ゴテにて均一に配り塗り。	

追かけ塗り (5 分以内)

4. パターン付け

- ・塗膜に転写液 JT-180Nをローラー又はスプレーで塗布してください(図1)。
- ・専用ローラーJR-193に転写液JT-180Nを塗布してください(図2)。
- ・配り塗りしたJQ-500が乾燥しないうちに、JR-193を横方向に転がしパターン付けを行う(図3)。

夏期 36時間以上

冬期 48時間以上

※養生は十分にとってください。

<施工のポイント>

- ・塗膜に転写液 J T - 1 8 0 N をローラー又はスプレーにて満遍なく塗布してください。  
ローラーで塗布する場合は中毛ローラー ( J R - 2 2 0 H ) を用いて全面に塗布してください。
- 塗布ムラをなくす為、十字にローラーを転がしてください。

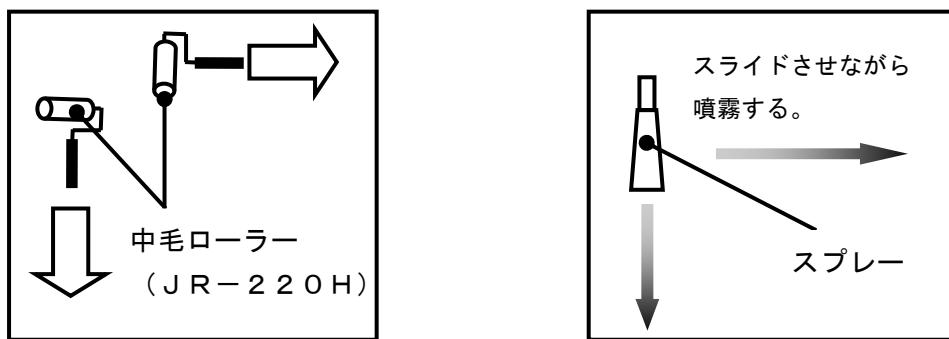


図 1

- ・専用ローラー J R - 1 9 3 にも転写液 J T - 1 8 0 N を充分塗ること。

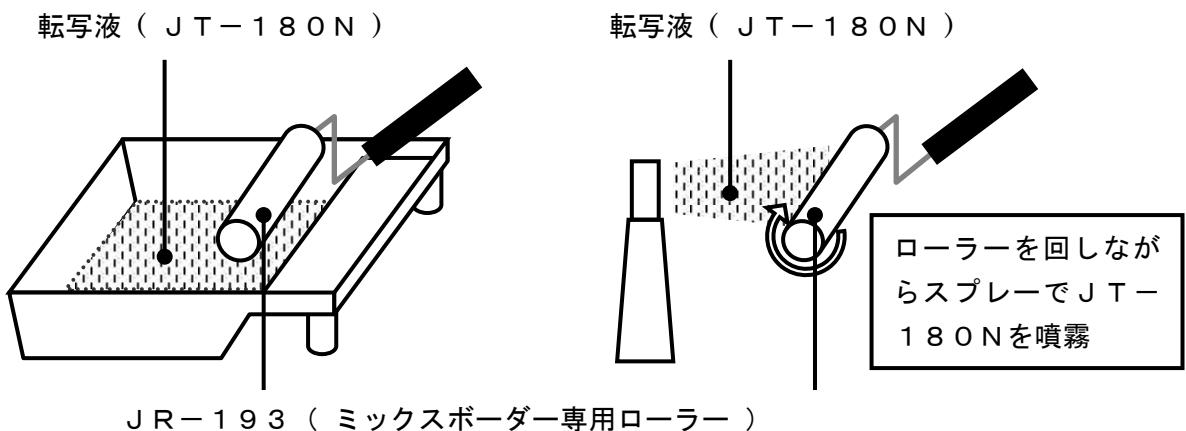


図 2

J Q - 5 4 3 - 5 0 0 - 0 7 - 0 1  
(J Q - 5 0 0 ミックストーナー)

- ・ローラーは、横方向に転がして意匠を付けてください。(図3) パターンが全体的につくよう何度もローラーを転がしてください。

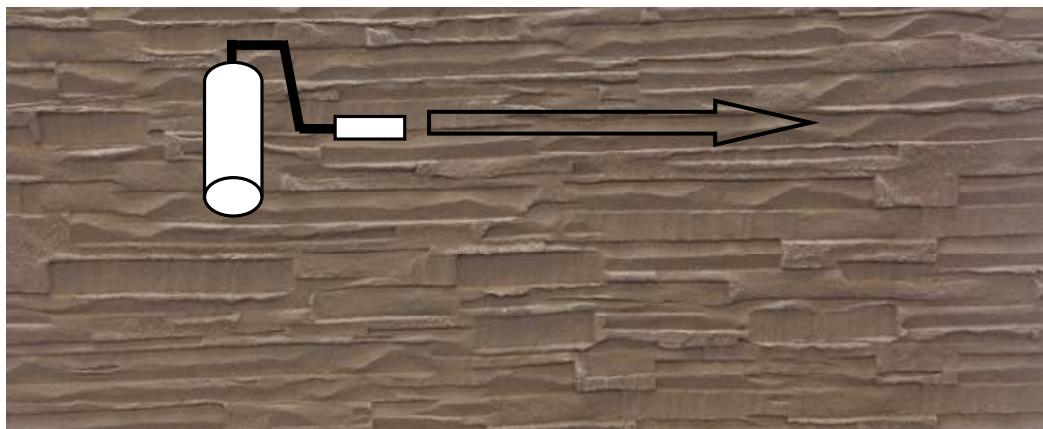


図3

- ・専用シート(J R - 1 9 3 S)を使用することで入隅にも意匠をつけることが可能です。  
転写液を充分に塗布した後、現場にある空き缶(角材でも、手で押しても可)など巻きつけ、  
壁面におしつけてパターン付けを行ってください。



写真 入隅シートの使用例

<施工の注意事項>

- ・配り塗りは、均一に塗布して下さい。塗布量が少ないとパターンがでません。
- ・転写液は十分に専用ローラーに塗布して下さい。転写液を十分に塗布しない場合、ローラーにジョリパットが付着しパターンがでません。
- ・転写液を過剰に使用すると、塗膜の乾燥が遅くなります。
- ・転写液 J T - 1 8 0 N が床などに飛散した場合、非常に滑りやすくなるので転倒にご注意下さい。
- ・転写液 J T - 1 8 0 N を噴霧する際は保護具を着用し、吸い込みのないようご注意ください。
- ・転写液 J T - 1 8 0 N を噴霧する際は溶剤を噴霧可能な霧吹きをご使用下さい。一般的な霧吹きを使用した場合、霧状に噴霧することが出来ない場合があります。
- ・施工前に必ずコンパネ等で試し吹きを行い、仕上がり、乾燥性を確認してください。
- ・塗板見本及び現場施工時のパターンの状態を、施主等の責任者の承認をいただいた上で施工を進めてください。
- ・乾燥が比較的速いため、塗り継ぎ時間に注意して下さい。  
(特に外装の大面積を施工する場合は、作業人工や化粧目地による分割を検討して下さい)。
- ・気温 5°C以下、湿度 80%以上、降雨、結露、強風などの条件下での施工は、硬化不良、ひび割れ、ふくれなどの不具合が発生する可能性があります。
- ・シーラー、ジョリパット施工の際は臭気トラブルを防ぐ為、事前に近隣への案内等にご配慮下さい。
- ・シーラー、溶剤、洗浄剤(灯油など)で有機溶剤が含まれる場合は特に、防毒マスクを着用してください。また、必要に応じて保護眼鏡や保護手袋を着用してください。
- ・施工器具(コテ、ローラー、吹き付けガン)などの洗浄水の、河川や側溝への廃棄は避けてください。
- ・ローラーは使用後速やかに洗浄してください。洗浄の際は中性洗剤を使用してください。
- ・商品ならびに施工に関するお問い合わせは最寄の当社支店までお願い致します。
- ・均一にローラーを転がすとつなぎ目が目立つことがあります。
- ・ローラーの性質上、ローラーの接合部が転写され、施工時にライン状に出ることがあります。
- ・J T - 1 8 0 N は粘度が低いため、中毛ローラーで壁面に塗布するとダレることがあります。  
J R - 2 2 0 H や市販の無泡ローラーの使用を推奨いたします。
- ・パターンローラーを J T - 1 8 0 N に長時間浸漬するとローラーが膨潤する可能性があります。使用後は中性洗剤にて洗浄してください。

J Q - 5 4 3 - 5 0 0 - 0 7 - 0 1  
( J Q - 5 0 0 ミックスボーダー )

- ・上塗り後、追いかけて転写液を塗布するため、転写液（J T - 1 8 0 N）の塗布量が多くなると、転写液がタレて上塗りする前の下塗り部分に付着することがあります。下塗り部分に転写液が付着した状態で上塗りを行うと、上塗りとの密着性が悪くなることがあります。転写液がタレた場合、速やかにウエスで拭き取るなどして下塗り部分に転写液が付着しないようしてください。
- ・転写液（J T - 1 8 0 N）がサッシなど他部材に付着すると変色などの不具合が起こることがあります。十分に養生し、他部材へ付着しないよう注意してください。

以 上